

会議録

会 議 名	第6回 高尾エリア観光振興会議	
日 時	平成21年3月3日(火) 午後6時30分～ 午後8時10分	
場 所	東浅川保健福祉センター4階 第4集会室	
出席者氏名	委 員	岡本伸之(会長)、宮瀬睦夫(副会長)、古本泰之、水口和也、木下昇、小阪弘、田島章、中村侑子、金指征治、井上郁子
	事務局	原田親一観光課長、森田隆俊主査、池ノ谷洋一主事
欠席者氏名	初野光男、渡邊一夫、岡部武次	
議 題	高尾エリアの観光まちづくりの提言書について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	高尾エリア観光振興会議委員発言まとめ 高尾エリア観光振興会議提言	

< 会議の内容 >

<事務局> 本日は、初野委員、渡邊委員、岡部委員の3名が欠席されております。また、古本委員は、大学の授業の関係で遅れる旨の連絡をいただいております。

それでは次第にそって、議事を進めます。

まず議事録の確認ですが、先日会議の開催通知とともに第4回会議録の最終確定版と、第5回会議録を送らせていただきました。第5回会議録について、訂正等ある場合は、本日会議終了時まで事務局へ伝えてください。なお、すでに訂正があるので、後日訂正後の最終確定版を郵送します。

配布資料ですが、高尾エリア観光振興会議委員発言まとめと高尾エリア観光振興会議提言と2種類がございます。委員発言まとめにつきましては、今まで5回の会議で委員の皆様が発言された内容をテーマごとにまとめたものです。この発言をもとに提言書を作成しております。作成にあたっては古本委員にご協力いただいております。

提言書は3つの柱で構成されています。1つ目が、「はじめに」ということで、会長のお話を載せます。2つ目が、各委員の発言から課題ごと整理しています。3つ目が、提言としてまとめたものとなっています。なお、提言書の1ページ目に高尾登山鉄道とありますが、高尾登山電鉄の誤りですので、訂正願います。

本日の会議につきましては、この提言について委員の皆様のご意見をいただき、それを整理したいと思います。

それでは、会長ご審議よろしく申し上げます。

<会長> まず、「はじめに」の部分だが、本日配布できるのか。

<事務局> 用意をして、後ほどお配りします。

<会長> お手元にある提言書の形で、本会議の締めくくりとしたい。

提言書の中のまとめの部分だが、観光ブランドの確立として、高尾山から高尾エリア全域へというスタンスの問題とアクションプランとして地域内観光振興ネットワークの構築を従来型の観光協会が主体となる事業でなく、ステークホルダーが結集し、観光まちづくりを推進していく必要がある。

脳科学者の茂木氏の意見だが、欧米人と日本人の感性は違うということである。高尾山が三ツ星をとったのもそのような視点が考えられる。このようなこともまとめの中には盛り込んでいきたい。

本日の会議では提言書について皆様の意見をいただき、それを踏まえて、事務局で修正したのち、後日郵送して皆様に確認いただき最終的な提言としたい。

なお、提言書8ページの2 - 1観光ブランドの確立の中で、「ブランド力」の拡散という文言があるが、これはマイナスイメージなので活用とかに代えたほうがよい。

<委員> もし了解を得られれば、まとめに追加してもらうことも可能か。

<会長> 可能である。

<委員> 国が認定する森林セラピールートというのがある。日本全国で35箇所ほどある。そのルートを歩くことによって健康になる。東京では、桧原村のルートが認定されている。認定の条件として整備されているということであり、高尾山のハイキングコースなら該当すると思われる。申請費用としては450万ほど。認定されている35箇所はすべて自治体が申請手続きをしている。今後、健康ブームは続いていくので、国のお墨付きがもらえるのはいいことである。このことを、ぜひまとめの中に入れてもらいたい。

ルートが認定されると周辺エリアも含めてもらえる。

<会長> この意見を加筆することによろしいでしょうか。

4ページの滞在型観光の項目の中で、ヘルスツーリズムというキーワードがある。このあたりがよいだろう。森林セラピールート認定の申請を試みるなどして、ヘルスツーリズムに適う観光地の整備として進めていくなどという文脈がよいだろう。

<副会長> まず2ページの今後への提言におおまかなものを入れて、具体的な部分を滞在型観光の項目で説明すべき。

<委員> 滞在型観光の項目の中では、埋没してしまわないか。森林セラピールートというのはちょっと違うので別に項目立てしてもよいのではないか。

<会長> それでは、ヘルスツーリズムという項目を新たに立ててヘルスツーリズムとし、コンベンションを1つずらして、コンベンションとしてはどうだろうか。ヘルスツーリズムの中にキーワードとして、森林セラピールートのことを入れる。

<副会長> 5ページのコンベンションについてだが、高尾エリア観光振興会議の提言のなかで盛り込むとなると、高尾エリアの中で新たにコンベンション施設を持つというような誤解を生じないだろうか。八王子市全域で考えるなら問題はないが、高尾エリアではそういった施設はない。

<事務局> この内容は、ハード面というより、市内には東京工科大学のよう受け皿となる大学があり、コンベンション誘致活動を促進すれば人が集まるということである。確かに副会長の指摘のとおり、誤解を招く懸念はあるが、この提言書は、いままでの5回の会議での内容をまとめたものであり、事務局で恣意的にまとめるのではなく、皆様にお諮りするのが本日の会議の趣旨である。

可能性としては、誤解を招かないためには3ページ(3)地域連携の促進に含めるか、または削除ということも検討できるのではないか。

<委員> これは、もともとコンベンションを開催しようというソフト面からもちあがった内容である。コンベンション誘致、またはコンベンション開催という言葉であれば、誤解を招かないだろう。ソフト面という言葉は強調すればよい。

<副会長> それなら、地域連携の促進に入れるべきである。コンベンションを開催し、そこからお客さんに高尾エリアに来てもらう考え方のほうがはっきりする。

<会長> それでは、(3)地域連携の促進<市内連携>の中に入れる。文脈としては、八王子は大学も多くあり、コンベンションの潜在的な要素がある。高尾はアフターコンベンションとして魅力があり、八王子としてコンベンションを誘致する戦略になるというようなことを盛り込む。

<委員> 元々の議論は高尾山に人を呼び込みためにコンベンションのお客をエクスカージョンするということである。

(提言の冒頭の会長のあいさつの文書を配布する)

<会長> 事務局からの要望で、このあいさつ文を書かせていただいた。過去5回の会議で委員の皆様から様々な意見をいただいた。この意見をもとに、アクションプランに結びつけていきたいと考える。
何か意見があれば述べてほしい。

<委員> あいさつ文の中で、ミシュランの三ツ星を得たことによって、高尾が目されたようなことが書かれているが、この点は違和感がある。

<副会長> 「さらに」ということである。

<副会長> 7ページにトイレのことが書いてあるが、具体的にはどうなのか。

<事務局> 現状は、薬王院までしか下水が整備されていない。このため、地元の協力を得て、仮設トイレを設置した。山頂までの下水整備については以前、東京都と話をしたが、認識の違いがあって整備に至らなかった。今後、改めて東京都とも調整していく必要がある。

<副会長> バイオトイレはどうなのか。

<事務局> 検討はしている。

<副会長> 下水が整備されていなくてもバイオトイレなら設置できる。仮設トイレは景観的にも好ましくない。

<会長> 7ページの下から2つ目の項目にトイレの整備についてあるが、ここに含まれるとよい。観光地において、トイレの整備はもっとも重要で、高尾山にとっては喫緊の課題である。下水の整備が難しければ、代替措置も含めて検討するべきというような文面を入れてみたらどうだろうか。

<委員> ぜひ入れていただきたい。

<委員> バイオトイレも許容量の範囲はあるが、下水が通せないところではやはり必要である。

<会長> レストランにおいても利用者はトイレを気にする。日本ではトイレがきれいでないと話しにならない。
ユビキタスコンピューティングというICタグを使った観光案内のシステムの実験を行っているが、ユーザーの反応はトイレの情報が一番多い。

<副会長> トイレは有料でかまわない。都内でも有料トイレは人気がある。特に山の中のトイレは維持管理がかかる。7ページにトイレの受益者負担の記載

があるが、多少お金を出してもらおうとかいう表現より、お金をもらおうと言うようなストレートな表現でかまわない。

< 委員 > 様々な分野のガイドが居れば、切磋琢磨することによって、レベルを上げることも可能である。ガイドのレベルを上げることによって高尾山もよりよくなる。

< 会長 > 専門的なボランティアガイドの養成に取り組むべきであるというような文言をぜひ入れたい。

< 委員 > 7ページの下から4つ目あたりがよい。

< 会長 > ボランティアガイドではなく、専門性をもったガイドといった表現がよい。
先ほどの有料トイレの件だが、入山料を取ってもよい。

< 委員 > 10年ぐらい前に、林野庁が高尾山で入山料を取ろうということで、薬王院に依頼があった。高尾山は入口も多く、当時は条件的に実現しなかった。

< 委員 > 提言書の中で高尾という表現があるが、これは高尾山なのか高尾というエリアなのかはっきりした方がよい。

< 委員 > 高尾という表現は、この会議においてはあくまで、高尾エリアであり、その中の特定箇所として高尾山という表現になる。

< 委員 > 3ページの広域連携の4項目に、「京王電鉄では～思っている。」とあるが、この箇所は「京王電鉄」を削除してもらいたい。

< 副会長 > この提言書は話し言葉が混ざっている。全部書き言葉に代えたほうがよい。

< 委員 > 議事録から抜き出したので、まずは皆さんにお諮りしてからではないと意図が曲がってしまうこともあるので、このような形にさせていただいた。

< 会長 > 話し言葉ではないまとめ方がよいだろう。基本的なスタンスとして、委員個人ではなく、会の見解としてまとめる。

<副会長> 2ページの(3)の3つめの箇所だが、土産化に至っていないという表現はおかしいので訂正してほしい。

<委員> 同箇所の文書の中で、和菓子がそれなりにあるとなっているが、こちらでも表現を変えたほうがよい。

<会長> テレビでも取り上げられたようだが、八王子ラーメンはブランドになっている。提言には入っているのか。

<委員> 会議の中では、食文化として取り上げられたが、提言には入っていない。1-2(1)の新たな観光資源として入れたらどうか。

<委員> 高尾エリアの中では、八王子ラーメンとしてやっている店はないのでは。

<委員> それなら、(3)地域連携の促進<市内連携>に入れてみたらどうか。

<委員> 1ページ1-1(1)高尾山における観光体験の質的向上の高尾登山電鉄の箇所だが、「観光資源を活用してイベントを開催し」との記載があるが、必ずイベントを行っているわけではないので、「イベントを開催し」の部分を削除してほしい。

<委員> 2月に京王電鉄が行っているそばキャンペーンの中で、薬王院の境内で行われる献上そばというのがあつた。これは、今後高尾を代表するイベントになるだろう。

<会長> 後は、事務局におまかせすれば、提言書はできあがりそうか。

<事務局> ご指摘いただいた部分を、古本委員と調整しながら、もう1回仕上げて委員の皆様へ郵送する。そこで、指摘事項があれば訂正するので、事務局へ連絡いただきたい。

<会長> できれば、返答の日程を限っていただきたい。

<事務局> そのようにします。

<委員> 2ページ(3)そのほかの箇所で、高尾山から周辺観光地へ回遊するということは難しいという表現が気になる。もう少し、表現をやわらかくできないだろうか。

<委員> 迎える側が本気で誘致する気がないとやはり難しいのでは。

< 委員 > 高尾山から周辺エリアに回遊するためには、各施設が呼び込む気がなければ、難しいのではないかというような表現がよいか。

< 副会長 > 以前も述べたが、やはり宝さがしをするということが本題。最初から回遊することを否定してしまうと、観光資源の宝さがしということがそもそも成り立たなくなってしまう。

< 副会長 > 高尾の里についての内容があまり触れられていない。資源化していくためにも、もう少し具体的に施設の内容を盛り込む必要がある。

< 会長 > 先程の発言を整理したい。高尾山から周辺観光地へ回遊することは現状では難しいものの、新たな観光資源の発掘と合わせて、今後その可能性を模索すべきであるといったような内容はどうか。
高尾の里はどこに記載されているのか。

< 副会長 > 7ページの下から4つ目の箇所である。
先日南大沢で芸者集と車人形と落語家が集まった舞台があった。200名ぐらいしか入れないホールだが、大盛況であった。高尾の里には車人形の常設館ができる。300名収容できるとのことだが、このくらいの大きさが調度よい。よって、観光資源として十分目玉になる。

< 会長 > 7ページの(5)観光インフラの整備 観光施設の中に入れたらどうか。平成23年に高尾の里の開設が予定されている。高尾の里の観光施設としての魅力を大いに活用するといった内容を入れる。

< 会長 > 他に意見はありますか。

< 委員 > 5ページの箇所だが、滞在型か都心から近い地の利を活かすか議論になったが、滞在型よりもという表現があるが、滞在型観光を提案しつつ、地の利を活かした日帰り観光というのも大事にしたい。

< 会長 > 滞在型よりもという表現が余計である。

< 委員 > 議論では両論とも提示されたままとなっていたので、そのまま取り上げた。

< 会長 > 両方の利点を活かすことも可能だろう。

< 委員 > 日帰り観光だが、以前関西の知人が都内に滞在した時に、八王子を観光案内した。武蔵陵墓地や高尾山周辺を案内したが、大変好評だった。都内からの半日観光として十分可能性がある。

<会長> 気軽に来られるということに加えて、様々な魅力を秘めた観光地であるということが言える。

<委員> 武蔵陵墓地は周辺環境も整備されて大変魅力的であるが、宮内庁自身がお客を呼び込む気がない。市としては、呼び込みたいと考えているなら行政同士の調整が必要である。提言書には、担保ではないがそのような調整の確約を盛り込んでほしい。

<副会長> 行政では、提言書のようなものは聞き置く程度になってしまう。こういった委員会等をやるからには、実行責任を明記すべきである。

<会長> 提言書に書いたから、必ず行政がやるというわけでもない。行政が取り上げるかは、行政の力量に委ねるべきである。この点については、あまりこだわるべきではない。

<委員> 観光事業について東京都と八王子市の役割分担がどのようになっているのだろうか。東京都も八王子市も観光振興を行っている。一方、東京都と八王子市が連携することによって、市でできなくても都でできることもあるのではないか。

<事務局> 東京都と八王子市の日頃の連携について述べたい。東京都は都全域を考えて、観光政策を進めている。八王子市は市を特化して、周辺地域と連携していくというスタンスの違いはある。

ただ、東京都と八王子市が連携することによって、実行力や効果が高まることもある。

また地方分権という時代もあり、自治体ごとに競争して手をあげれば、東京都がバッグアップする体制にあり、話し合いを持つ機会も多い。

特に、外国人誘致に関しては、高尾山は都内にはない自然がある場所として認識されており、東京都も応援をしてくれる体制にある。

<委員> 外国人誘致に関しては、国土交通省も東京都も行っており、お互いが連携すればもっと効率的になると思われる、このことが、東京都と市の関係にもあてはまる。東京都がコンベンションを誘致するときに、八王子市が自然の豊かさをアピールし、東京都と八王子市がタッグを組み誘致することが必要である。

<会長> 今の意見や、先程の副会長の意見である市への要望等については、提言書の冒頭部分に取り込む。

提言書については、事務局と古本委員でまとめてもらうが、話し言葉でなく「である調」でまとめる。

観光振興というのは、行政の仕上げと考える。熟度が高まってくれば、最後は交流が新たな文化を呼ぶというところに行き着く。このようなこと

も盛り込みたい。

< 委員 > 提言書の5ページ上から4つ目の項目で、八王子が適するかは不明だが
となっているが、適すると思われるにしてほしい。また、5ページの
コンベンションの箇所、様々な学会の事務局が日本にある場合とあるが、日
本には本部がたくさんあるというように訂正してほしい。

< 事務局 > 本日まで計6回会議を行い活発な議論をいただきました。皆様からいた
だいた貴重な意見を絵に書いた餅にしないように、1つでも2つでも実施
していきたい。実施にあたっては、観光関連事業者、市民の皆様のを借
りながら行っていきたい。

< 会長 > 皆様ありがとうございました。